第５課　エデン以後の管理者

【暗唱聖句】

「わたしたちは神に認められ、福音をゆだねられているからこそ、このように語っています。人に喜ばれるためではなく、わたしたちの心を吟味される神に喜んでいただくためです」第一テサロニケ2:4

【今週のテーマ】

【日曜日・旧約聖書の中の管理者】

旧約聖書において管理者は「家の上に立つ、家の運営を任せられている人」という意味で用いられており、「執事」「家づかさ」「家令」などと訳されています。

「主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計らわれるのを見た主人は、ヨセフに目をかけて身近に仕えさせ、家の管理をゆだね、財産をすべて彼の手に任せた」創世記39:4，5

奴隷して売られたヨセフは主人ポテファルの管理者となりました。それは主が彼のすることをすべてうまく計られたので、主人は驚き信頼するようになったからでした。ヨセフはまさに良き主の証人のモデルです。当時、管理者は以下のことが求められました。

①　能力によって選ばれ、非常に責任が重く、主人から信頼を得ていた。

②　託されたものが主人の所有物であることを知っていた。

③　自分に託された物を私的に利用した場合、信頼関係は壊れ解雇された。

管理者が忠実にその働きを成していくことは、簡単なことではなかったことでしょう。誘惑もありました。南王国ユダの王ヘゼキア王のもとで管理者として仕えていたシェナブは自分のために豪華な墓を作りました。それは彼の見栄であり、管理者の地位を悪用してのことでした。そのため主はそのことで彼を断罪することになります。

「万軍の主なる神はこう言われた。「さあ行け、あの家令のところへ。宮廷を支配しているシェブナのところへ。」ここでお前は何をしているのか。ここでお前は何者だというのか。ここに自分の墓を掘るとは何事か。高い所に墓を掘り。岩をえぐって住みかを造ろうとする者よ。見よ、主はお前を放り出される…」イザヤ22:15～17

エルサレムはキドロンの谷（現在はアラブ村シルワン）から墓碑が見つかり、現在大英博物館に保管されています。そこには「宮廷を支配するヤフー（＝シェブナ）の墓。金も銀もここにはない。あるのはシェブナの骨とその妻の骨だけだ。この墓を暴くものは呪われるべし」と書かれてあるそうです。

【月曜日・新約聖書の中の管理者】

管理者について概念は、新約聖書になると単なる財産を管理すること以上に拡大されていきます。たとえばルカ16章に「不正な管理人」のたとえ話が登場します。ここでは主人のお金を不正に使用することで自分を助けてくれる友を得ようとした管理人の話が出てきます。主人はこの不正行為を賢いやり方をしたといって褒められます。もちろん不正な行為を奨励しているわけではありません。しかし、必死に頭をフル回転して富を他者のために使うことで自分が救われようとする管理人の姿を前に、クリスチャンに対して神様の賜物を用いる義務がありながら、口先だけきれいごとを言って何も行っていないのなら、それは正しいことだろうかと指摘しておられるのです。クリスチャンは等しく神様の賜物の管理者であり、それを賢く用いる義務があるのだと管理者の概念を霊的に発展させています。自分の栄光のためではなく他者のために、神様のためにその賜物を用いることによって、やがてそれは永遠の命へつながっていきます。

「こういうわけですから、人はわたしたちをキリストに仕える者、神の秘められた計画をゆだねられた管理者と考えるべきです。この場合、管理者に要求されるのは忠実であることです」第一コリント4:1、2

「私は神が預けて下さったすべての能力と活力を目覚めさせる聖霊に、自分の心を開くだろうか。私はキリストの所有物であり、彼に仕えるために雇われている。私はキリストの恵みの管理者なのである」エレン・G・ホワイト

わたしたちは神様のご計画を成し遂げていくために、それぞれに神様から賜物が与えられています。それを忠実に成し遂げていくことが期待されています。キリストは、「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」（ルカ16:10）と言われました。「小さな事」とはこの世の事柄、そして「大きな事」とは神様の事柄と読むこともできるでしょう。その場合、この世のことに不誠実なクリスチャンは神様の事に対しても不誠実となり、良き管理者としての務めを果たすことができないのです。

【火曜日・神の秘められた真理の管理者】

クリスチャンは「神の秘められた計画をゆだねられた管理者」であると聖書に書かれているわけですが、では神の秘められた計画とは何のことでしょうか。

「それは、この人々が心を励まされ、愛によって結び合わされ、理解力を豊かに与えられ、神の秘められた計画であるキリストを悟るようになるためです。知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています」コロサイ2:2,3

パウロは「神の秘められた計画」とは、キリストそのものを指していると語っています。具体的には、第一テモテ3:16に描かれています。

「信心の秘められた真理は確かに偉大です。すなわち、キリストは肉において現れ、“霊”において義とされ、天使たちに見られ、異邦人の間で宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた」第一テモテ

3:16

わたしたちが管理しなければならないのは、「秘められた真理、秘められた計画」と表現されていることからも、神様がはっきりと聖霊によって示してくださらない限り理解することができません。つまり自分では完全に理解できないものの管理者というわけです。それでも聖書のみ言葉からわかっていることもたくさんあります。神の御子が人となり、罪を赦すために十字架におかかりになり、復活し、再び地上に戻ってこられる。これは本当に素晴らしいことで、わたしたちに与えられた大きな希望です。このわかっている範囲において、聖霊の力をいただいて、み言葉に忠実であることが管理者に求められていることです。

【水曜日：霊的真理の管理者】

新約聖書で教えられる管理者の務めは有形の財産ばかりでなく、無形の霊的賜物の管理も求められています。この無形の賜物は私たちは神の子として作り上げていく大切なものであり、有形の財産以上に価値があるものですから、注意深く管理していかなければなりません。

わたしたちに与えられている神様からの賜物は、イエス・キリストそのものなのですが、もう少し身近な表現で表すと、たとえばそれは、「わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命」（ローマ6:23）と表現することができるでしょう。このことを理解し常に念頭に置いていることは、神様から与えられている他の賜物を管理する上でも大きな励ましと力になることでしょう。これ以上の賜物はないからです。またこの神様からの賜物を悪魔は狙っています。だから悪魔から奪い取られることがないように注意しなければなりません。

「わたしは、すぐに来る。あなたの栄冠をだれにも奪われないように、持っているものを固く守りなさい」黙示録3:11

【木曜日・管理者としての私たちの責任】

わたしたちは神様からの賜物の管理者として責任があります。タラントのたとえによれば、最後に与えられた賜物をどのように生かし用いたのについての説明が求められることがわかります。また以下のみ言葉も有無を言わせず私たちの行動に対するその結果について教えています。

「なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです」第二コリント5:10

このような聖句を見れば怖い気もしますが、神様からの賜物の管理者として責任を果たすということは、神様との個人的関係がしっかり結ばれているという証でもあります。良い管理者は喜んで与えられた責任を全うします。それは神様との個人的な麗しい関係がしっかり築かれているからです。